



ぶれいん

2004年8月

発行人 学術・図書委員会

発行責任者 大西 英之

編集責任者 吉野 孝広

大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

大西脳神経外科病院の基本方針

1. 生命と人権を尊重した医療を実践する。
2. 神経疾患の専門的・高度医療を実践する。
3. 常に新しい医学の学習に励む。
4. 救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

機能評価受審特別企画

● 病院機能評価を受審して ●

院長 大西英之

病院機能評価は平成16年4月25～26日の2日間にわたり、4名のサーベイヤー（リーダー1名、事務担当1名、医療担当1名、看護担当1名）により行われた。

受審を考えたのは開院当初からであったが、実際に受けてみようと思ったのは開院1年後のことであった。以前勤めていた大阪警察病院で私は機能評価担当の委員をしていたので機能評価のアウトラインは知っているつもりであったが、評価基準も相当厳しくなっていたし、今回はなにしろ院長として全体に目を配らせねばならなかったので毎日病院に泊り込みの日々が続いた。

そに行けば絶対やめたい



自分と交した約束です。

開院3年で受審となると、いくら順調に日常の診療が行われていても、いろんな規程やマニュアルも整備せねばならず、かなり負担と思えたが、これをせねばいつまでたってもこれらは完成しないのではと思ったからである。また、これを機会に職域を越えた交流ができ、職員間の相互理解や親睦にいささかなりとも役立つはずであると考えたからである。

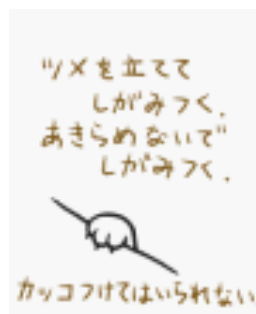
予備審査を受けるまでは多くの職員は機能評価の実感がわからないのか、他人事のように感じていたのか、現実にかんがいの内容で日々の診療が行われていると信じていたからか、議論ばかりが先に立ち、なかなか実行に移らず、かなりイライラの日々が続いた。予備審査の日が迫ってくると、幹部職員を中心に自己評価調査票を用いてひとつずつチェックしていった。それぞれの部門においてみな病院機能の実行に自信があったのか、簡単に考えていたきらいがあった。次にはこれをまとめておきましょう、次はこれを文章化しておきましょうとチェックはできはしたが、肝心のマニュアル化

まあぶらぶらした話
見えないことだけ
頑張れるかなのよね。



が先送りされてばかりであった。「予備審査だからと
いて教えてもらうような考えでは通らないし、本
審査でもまた同じことをして結局落ちてしまう」と
朝礼や機能評価委員会でもうるさく何度も話しては
いたが、職員の意気は一向に上がらなかった。さす
がに小生としても少し身を引き、様子を見ていよう
と思った。時が過ぎ、さすがに予備審査の前には形
だけはできた。その時としては、やっとできたと満
足感に浸っていたと思うが、今から考えればお粗末
といわざるを得ないものであった。

予備審査のその日が来た。審査員から特に悪いと
いう項目はありませんが、判定基準が少し甘いです
ねというようなご意見をいただいた。内心自信があ
った私としてはあまりいい感じがしなかったが、そ
のときはそれがどういう意味なのか理解していなか
った。予備審査後の1~2ヶ月は、やっとできたとい
う安堵感からかすべての部門においてただ日にち
のみが過ぎていった。年が明けて、本審査の日程が
決まり、提出すべき書類の一覧表が届いた。あっと



驚いた。チェック表を中心にま
とめてはいたが、予備審査のと
きと違いその準備すべき書類
の多さにただ圧倒されるばか
りであった。毎週完成された規
程集やマニュアルをチェック
するだけでも、週1回会議を
するとしてあと10回程度しか
ない。診療会議メンバー（幹
部職員）を集めて檄を飛ばした。
1月、2月はあっという間に過
ぎ去った。プロジェクトXでは
ないが、3月からは毎日が戦い
であった。目がはれ、殺気ばし
て来た。幹部職員は自主的に夜
遅くまで残り、最後のゴールめ
がけて頑張ってくれた。もう
先は見えた。後はただ皆ダウン
しないように体に気をつけてく
れと祈るばかりであった。

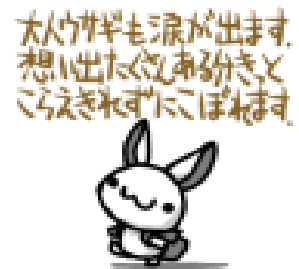
2004年4月25日、その日が来た。これだけ準備して
きたのだからもう慌てる事は無いと思いつつも、まだ校
正されていないマニュアルを直している者もあって、落
ち着かないまま審査員をお迎えした。短い挨拶の後、
書類審査が始まった。その後合同面接、パワーポイント
を使った病院の概要説明のあと次々と質問があった。
評価委員はそれぞれの部門において十分な経験がある
だけに、質問の内容は確信

をついていた。当院の職員は3年前に集めた寄せ集
め部隊であるし、大きな組織で働き病院の動きと自
部門の動きをリンクさせて理解できているものは数
名にしか過ぎず、うまく答えてくれよと願う気持ち
で見つめていた。

2日目は各部門に分かれて院内各所の視察が行わ
れた。特に大きな問題はなかった。病院のハードは
しっかりしていますし、療養環境も良いですねと褒
めていただいた。新しい病院ですからと謙遜しては
言ったが、いろいろ考え設計していった当時のこと
が思い出され、嬉しかった。

最後に幹部職員が講堂に集められ講評があった。
大きな問題点はなかった。院長のリーダーシップの
もと職員が団結され、よい医療に向かって努力され
ていることに敬意を表します。開院3年間でよくぞ
ここまでやられましたね。難しい講評があるものと思
っていたが、第三者からの言葉だけに感激した。褒
めすぎではと思った。今までの努力は無駄ではな
かった、すべての職員がよくぞここまで頑張ってく
れた、私の我が儘によくぞついてきてくれたと思
うとき胸に熱いものがこみ上げ目が潤みか
けた。

多くのすばらしい職員と共に、より良い医療
のために仕事ができる喜びを今かみ締めている。仕
事ができるってこんなにすばらしい事ではないか、
仕事があるときは感じる事ではないが、改めて今実
感している。



■ サーヴェイアーとの面談の印象 ■

副院長 西川 方夫

- 1) 第4領域のサーヴェイアーは過去の調査は、多
診療科を有する総合病院でのものが多かったよ
うで、単科病院での調査は経験が少ないのでは
ないかという印象を受けた。
- 2) 医務部門への質問で、答えに窮するようなもの
はなく、殆どがマニュアル化されているもの
に対する繰り返しの質問が多かった。
- 3) 最後のほうは雑談のようになり、サーヴェイ
アーの過去の医療経験（麻酔に関することなど）

や、彼が作成した施設などの話があった。

- 4) リハビリテーション科に対する質問は、一般的な内容のことで、専任医師の関与については関係する書類で特に問題なかった。
- 5) カルテについては医師、看護師の記載がよかったようで特に指摘事項は無かった。
- 6) 最後の総評で「特に神経内科医と麻酔科医の人材確保」が指摘されたが、われわれもその点については検討している。個人的な意見ではあるが、一般内科医の補充も必要なのではないだろうか。

以上、私がサーヴェイヤーとの面談で印象に残ったところです。



こんなに沢山の書類をよく作ったものです！

● 機能評価奮戦記 ●

事務部長 植田 惇彦

1.はじめに

院長から「病院機能評価を受けようと思うが？」と相談していただいたのが約2年前で、平成14年（2002年）の頃だったかと思う。当時は病院機能評価のことなど何も知らず、消防で言えば「適マーク」かホテルで言えば「Oツ星ホテル」の様なもの、程度の理解であった。しかしいずれは「認定があれば1流で、認定が無ければいくら医療が良くても3流病院と言われるだろう。」と思い、また以前に多くの民間の製造・建設の会社がISOを取得し自分も流行り病にかかった様にISOの取得に2度も関わったこともあったので、「良く判りませんが、取らなければ駄目だと思います。」と即答したのをおぼろげながら覚えている。それから調査を始めたが日常業務が忙しくほとんど

何もできないで時間が過ぎて行った。

もう機能評価のことを忘れかけた8月に再度院長から「早くやらないといとどんどん時間が経つのでそろそろスタートしたい。」と言われた時は「え、まだ何も準備できていないのに直ぐに受審は無理ではないか。」と思ったが、院長の「待っていてはいつまでもできませんわ！」の言葉に背中を押されて「やりましょう？」と迷いながら返事した。

9月の診療会議で院長から「病院機能評価受審」の提案があったが、委員会メンバーも突然の提案に最初は躊躇していた様に思えた。自分としても「全国で約10%兵庫県では約20%の病院が既に認定を取っており、今に認定があれば1流で無ければ3流病院と言われるだろう。」との趣旨の話をした。診療会議メンバーからも次々と意見が出され、総意で「病院機能評価受審」が決定した。また予備審査を受けるかどうかの論議も活発にされたが、「本審査で確実に受かるために。」との理由で院長に了承願って予備審査も受けることとなった。

「予備審査も受けることが出来て良かった！」と内心非常に喜んだ。

2.体制・書類整備

「病院機能評価受審」が決定したが、これからが大変で事務部関係の評価項目は思ったより広範囲で中身も濃かった。ISO受審の経験では生産と品質管理（医療では医療と品質管理）がメインで次に研究開発があり、営業管理等事務部門のウエイトはかなり少なかった。

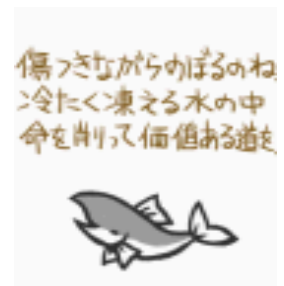
病院機能評価では第5領域の「看護の適切な提供」以外の全領域で関わりがあった。

正直言って「え、こんなにあるの。何から手をつけてよいやら？」とうろたえた。

また、「1項目でも2点があると他が全て良くても受からない」というのも凄いプレッシャーとなって1項目も気の抜けないことになった。

参考:事務部関連評価項目抜粋

- ①第1領域：基本方針、役割医療ニーズ、中長期計画、リーダーシップ、事業計画、



組織運営、各種規程、情報伝達、情報管理、
診療情報、診療録開示、法令遵守、
教育・研修、改善活動、地域連携、他施設への
紹介・転院、等。

- ②第2 領域：患者様の権利、医療安全管理体制、
医療事故対応、等。
- ③第3 領域：接遇、相談室、電話、喫煙、売店、
災害対策、等。
- ④第4 領域：情報管理、診療記録管理、図書、等。
- ⑤第6 領域：人事管理、就業管理、人事考課、定
職金制度、目標管理、労働安全衛生、財務管
理、経営管理、予算管理、資金・設備投資管
理、経営分析、医事業務、
施設・設備管理、保安体制、廃棄物管理、物品
管理、業務委託、訴訟対応、等。

3. 予備審査受審

中期計画と事業計画も作成したし、院内研修も継
続実施し目標管理制度も開始した。

体制・規程・マニュアル等も着々と完成して来るが、
何しろしなければならぬ事が多すぎてやってもや
ってもゴールが見えない。そのうち、予備審査受審
は11月20日と決まった時にはもう日数は余り無
い。医療技術部の各部署は既に出来ており、看護部
は金川部長と各師長がフル稼働して仕上がっている
し、医務部の西川副院長と薬剤部の堀内部長が頑張
られて着々と進んでいる。全体の中で自分だけが遅
れているとの焦りが日々深まって来る。毎日毎日遅

ナマケモノから一言、
「あんまりおはなす」



い日が続いたし、休日も出
て仕事をやる事が多くなった。
病院機能評価の院内会議
も月1度から8月以降は毎
週（木曜日）開催となった。
皆もイラ立ってきて会議で

の声も日増しに大きくなるように感じた。

10月からは、追い込みに入って休みを返上して毎
晩11時頃に帰った。その甲斐あってか、予備審査
直前になってやっと何とかゴールが見えたと思った。
しかし予備審査前夜の8時ごろに布野師長が「植田
部長！ここに付箋がついたままの（未完成の）ファ
イルがありますよ。」とファイルを2冊持って来られ
て愕然とした。とっさに「探していたんです。」とは
言ったが気が動転して頭の中が真っ白になった。

「やるしかない。」と覚悟を決めて資料の差し替え
を開始し、幸い布野師長・上原師
長と小林君から必要資料をすく
にもらえたお陰で、何と2時間
で完了した。感謝感謝！

ひらき直れ！



予備審査当日は書類審査に引き
続き領域別部署訪問で同行し、こ
の間に矢次早に多くの質問もあったが何とか無難に
回答できたし手応えはあった。

最後に講評があり、指摘事項はいくつかあったが「2
点はありません、本審査に向けて3点を4点に4点
を5点への改善努力をして下さい。」とのお言葉を頂
いてホッとした。

4. 本審査受審

予備審査の後しばらく「予備審査疲れ」か「講評
で安心した」せいか気持ちに乗ってこず、機能評価
業務では中だるみ状態が続きアツという間に正月が
あけた。いよいよ本審査の4月まで4ヶ月を切り再
び予備審査の時と同様あせりの毎日となった。

再び休みも出勤して毎晩11時頃に帰る日々が続い
た。資料の内容は予備審査より相当詳しくなったし、
参考資料も充実した。各ファイルもみるみる厚くな
り、分冊して冊数も少しずつ増えて行った。

既存の手元ファイルの内容を整理し見出しもつけて
書類を探し易くした。マニュアルも細くなり、各
課の業務分担と業務マニュアルを集大成して完成し
た。本審査直前になると「やるべき事はやった。」と
いう達成感が妙な自信というか、心が安らぎ落ち着
きが出てきた様に思えた。それでも本審査当日の朝
の最後の最後までファイルに目を通して本審査に臨
んだ。

本審査の調査員の先生は4名来
られ、先ず入念に膨大なファイ
ルを読まれ、引き続き合同面接
調査となった。翌日領域別部署
訪問では質問の数も多かったし
内容もどんどん詳細になって行

ふんがけられても、
ヤシヤンコになっても、
私は咲きます！



ったが、書類が整備できていたし質問に対しても即
座に無難に対応できた。最終講評で各先生から「開
院間もない病院で院長の指導により全員協力して良
くここまでやって来られた。」との過分なお褒めのお
言葉を頂き、嬉しさのあまり思わず涙が出た。全て

が終了した時には「終わった！」という安堵感と開放感のようなものを感じた。

5.おわりに

自分にとっての病院機能評価の受審は中身の濃い約2年間の月日を経て終わりました。

この間の労苦は自分にとって血となり肉となったと自負しておりますし、この経験は今後の業務に大いに役立つものと思っています。

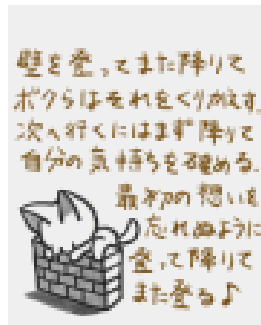
病院機能評価受診が病院に残した有形無形の財産も数多くあります。広い意味では、医療水準向上、医療安全確立、接遇改善、等があります。またこれ等を支える手段として、教育・研修、目標管理制度、改善提案活動、職員意見集約、等も実施してきました。

何よりも、病院の職員全員(委託会社職員も含む)が一致団結して「全員参画の病院運営」を行っていることが素晴らしいことだと思います。これ等を継続している限り病院は更に成長し一層繁栄して行くことでしょう。また、有形の多くの財産も残っておりますので、これらをご覧になられた折には病院機能評価受診を思い出されて日々の業務に生かして下さい。(以下、実施年月順)

- ①相談室、②浴室手摺、③1階掲示板、④指導室、⑤トイレ清掃チェックシート、⑥患者様番号呼び出し、⑦職員氏名(写真入)一覧表、⑧総合受付、⑨トイレのエアタオル増設、⑩デイルームの手摺、⑪デイルームのパーテーション、⑫診察室患者様背もたれ椅子、⑬リハビリテーション内血圧計、⑭検尿カップ・血液スピッツの目隠し容器、⑮電話ボックス、⑯売店、

日本医療機能評価機構によれば、病院機能評価の結果がでるのは7月頃とのことです。まだ先のことですが、きっと好結果がいただける事を切望しております。

最後に病院機能評価受審に際し事務部の多くの職員のご努力とご協力に感謝して、「機能評価奮戦記」を終わります。



ぬけがらには戻れない、
今日のコアは昨日と違う、
今日のコアは昨日と違う、
明日を目指して進むわね。



■ 機能評価本審査を終えて ■

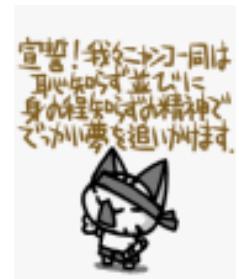
看護部長 金川 雅子

機能評価本審査に向けての準備は3月、4月の厳しい現場状況の中、連日夜遅くまで(土曜日も無く)取り組み、最終週には、疲れもピークとなりピリピリとした緊張感の中、一冊また一冊と完成させてゆき、最終ファイル8ラック315冊にもなった。前々日には、前職種による深夜に及ぶ最終チェック。前日の関係者全員出勤による意思統一図り、訪問審査に備えた。

- ① 医療、看護の質の向上(標準化)
- ② 各種マニュアル、規定等の整備
- ③ 院内、各部署内のコミュニケーション
- ④ 開院当初からの見直しと整備
- ⑤ 部門を越えたマニュアルの統一

など等・・・病院として多くの財産を作ることが出来た。サーベイの方々からお褒めの言葉を頂き、2ヵ月後の正式評価を楽しみに待ちたい。

今回の取り組みを通して、当院が如何に素晴らしい人材に恵まれているかも再認識でき、みな力を集結していくことで更に発展していく病院として認識できた。



■ 医療機能評価機構の審査を終えて ■

薬剤部 堀内喜美恵

受審が具体化した平成14年11月、薬剤部ではまず業務の見直しから始めた。開院当初の調剤内規を大幅に改訂し、業務マニュアルの大筋が出来たのは、15年6月であった。

日本病院薬剤師会作成の「業務チェックリスト」は、別の角度から業務を点検するのに大変役立った。自己調査票を読み返し、他院の受審情報

を参考にマニュアルを何回か改訂し、業務を充実させていった。15年11月の予備審査が終わって、ホッとする間もなく年末を迎え、指摘事項に取り組んだのは、年が明けて1月の中旬になっていた。この時期になっても、自己調査票を読み返す度に足りないことが見つかり、かなり焦った。

ゼンマイが加減が違えば、巻いた方が進めず、その方が何層も止まるけど、何にもいって進めると便利な幸せありません。



開院間もない時期に審査を受けたことは、各部署とも大変なことであったが、業務を一から見直す良い機会となり、病院の基礎固めが出来たと思う。

今後は、患者様により良い医療を提供する為に、院内各部署が連携を取り合い、努力を重ねて行かなければならないと思う。

苦しいことや辛いこと
忘れなければ楽だけど
忘れないから頑張れて
覚えているから強くなる。



を記録に残せないことが多く、記録の充実を図るよう努力した。

一年間の準備の後、4月25日・26日、本審査の日を迎えることとなった。サーヴェイヤーの洞察力は鋭く、指摘を受けることはすべて納得できることばかりで今後改善して行きたい。講評の中で患者様を大切にしようという思いが伝わってきた。



▶ 機能評価準備作業で驚いたこと ▶

総務部参与 岡田 惇也

1. すべてが時間外で行われたこと

会社ではこのような大事業に対処する場合、日常業務を放っておいても臨戦体制をとる。病院はそれができないので、ほとんどすべてが時間外作業で行われたこと、そしてそれで完遂したこと。

2. 直線のスピードが速いこと

正直言って、競馬に喩えるとこのレース向正面までは着外かと予想した。しかし、各馬第4コーナーを曲がってからの直線スピードの速いこと！見事、連複（1着だと言う声あり）にからんだ頑張りに感服。

客観的にみれば



3. 特別出費

この大事業に際して1～4月に購入したものの。テプラ49巻、クリアブック176冊、クリアポケット1500枚、A3フレーム118枚。すべてが病院の血となり肉となったが文具業界にも大貢献！

■ 機能評価を受審して ■

外来・手術室看護師長 木村 ひとみ

一年半前に院長から「機能評価を受審し、悪い点を改善し生き残れる病院にしよう」という提案があった。これを受けて、各部署準備が始まった。看護部においては、師長会・主任会・各委員会を中心に、手順・基準を作成し、見直す作業が行われた。日常業務を終えてからの作業となり、厳しい状況が続いた。手順書を作成しても、スタッフへの浸透が課題であった。詰所会などで浸透させるように努めた。また、実際の看護ケアを行う中で、患者様そしてご家族を含めたかわりを実践していても、そのこと

◆ 病院機能評価受審を終えて ◆

3階病棟 看護師長 上原かおる

無事に病院機能評価受審を終えた今の気持ちはというと「やっと終わったー」の一言に尽きます。

今回、審査を受けて講演で皆さんが異口同音に「受審するまでのプロセスが重要である。」といわれる意味がよくわかりました。種々のマニュアル等を作り上げるのは大変でしたが、このような機会がなければ、完成するのが3年後、5年後あるいは、そのうちに・・・ということになっていたかもしれせん。辛かったけれどよい経験になったと思います。

オランウータン発見！
もはやれる自分大発見！



結果の発表はまだですが、今に留まることなく医療の質向上、患者サービスの向上に邁進していきたいと思います。

◆ 機能評価を受審しての感想 ◆

2階病棟 看護師長 布野恵美子

本審査を受けてまず感じたことは、「よく頑張ったなあ」と言うことである。

毎日、資料作成に励み、各部門が合格という目標に向けて努力した成果が伝わったのではないかと思う。

固い地面にぶつかって
ボールは高く飛び上がる。



しかし、最後には時間が足りなかったようにも思う。質問事項を作成しスタッフにシュミレーションしたり、各部門がどのように答えるのかの打ち合わせ準備期間を持っていれば、責任を持って答えることが出来たのではないかと思う。院長からアピールが必要だと言われ、どのように答

痛みを力に変えて飛ぶ。

えればよいか戸惑いもあったが、最後にカルテを提示し日々行ってる看護に対して説明する機会が与えられた時、自分の思いを伝えることが出来た。また質問に対して緊張はしたが、返答しやすい雰囲気を作って頂いたので答えやすかった。その結果、誠意が伝わったのか「よく頑張っている」という評価を得ることが出来た。この評価を自己満足に終わらず、スタッフ一人一人の自身に繋がって欲しいと思う。そしてこれを機会に更にステップアップしていくよう努力していきたい。

一緒にいこう。



機能評価審査を終えて

医事課課長 川中 雅彦

昨年の六月に着任した時には、すでに機能評価取得に向けて活動している時であった。前任者から、資料をもらい、また既に取得している病院の医事課の方に色々と教えていただきマニュアルの修正を行いました。初めてと、病院に慣れていないこともあり、戸惑いだけが残りました。予備審査を受けて指摘事項があったので、再度マニュアルの修正と、実際の運用を見直しました。変更直後は、混乱もありましたが皆が団結してくれました。感謝感謝です。

かまひっくり返る、もかひいてもかかいてま、起き上がれない時がある、一人じゃムリな時がある



その際はヨロシク。

本審査近くでは、質問に対する回答がうまく出来ていない、修正が必要等日々の業務をほったらかしにして取り掛からないと間に合わないようになり、課員の皆には迷惑をかけました。でも終わった瞬間の達成感は何にも代えられない喜びでした。相談に乗って頂いた方々、また医事課の皆に改めて感謝しております。ありがとう。

病院機能評価について

地域医療連携室 主任 (MSW) 越智 信成
資料作成時、地域医療連携室、医療相談室では、事務部門はもちろん、看護部門、診療部門においても少しずつ資料が必要で、抜けがないか気を使いました。事前審査時の指摘事項は少なかったですが、地域医療連携について体制が整っていないことが若干

気がかりではありませんでした。業務の流れの図を作ったりして何とかなったかと思いましたが、紹介・逆紹介のチェックシステムについて指摘があり、今後の課題と思っています。

多くをえはいられない、今日も明日もあつても。



病院機能評価が終わって

臨床放射線科 主任 位部 清一郎

一言でいえば、つかれました。まだ3年から4年目に突入し基本的なことはある程度できていると思っていたのに、マニュアル文章を作っていくうちにあれもない、これもないとことを思いしらされました。完成したと思えば、上からやり直しと言われ、また出来たと思えば新しいマニュアルを作ってくれと言われ、心の中では「いったいどうしたら OK がでるんや〜」叫んでいました。

本番当日は緊張もなく、サーベーターの質問にも難なく答えられ淡々と過ぎたようにも思います。最後になりましたが放射線科の佐藤君、戸川君、橋本君、伊藤君いろいろ手伝って頂きありがとうございました、また機能評価に携わった皆様おつかれさまでした。

これで一生懸命な、ボクらの川に頑張るの。



機能評価受審にあたって

栄養管理室主任 森川 香

この度の機能評価受審にあたっては、部署内・外に関わらず、沢山の方々に協力していただき、「患者様のために、多部門が横断的に関わりあってよりよい医療を実践する」ということの重要性を改めて実感することが出来ました。

日々の業務に忙殺されている中では、患者様の視点で改めて業務を見直すということは、なかなか難しいことなので、よい機会になりました。準備作業はそれなりに大変でしたが前向きに取り組めたと思います。しかし、私事、連日の遅い帰宅や仕事の持ち帰りのため、満足に食事や入浴の世話をしてやることも出来

何かが流れて涙は枯れ、流した数だけ強くなる。

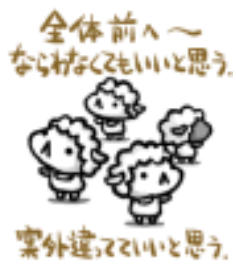


ず、すっかり情緒不安定になってしまった子供たちに頭を抱えました。本診査終了後、子供に「これでやっと普通の生活に戻れる！」と言われたとき、私は心底安堵することが出来たのでした。

■ 機能評価を終えて ■

言語聴覚士主任 寺田博子

「いらっしゃいませ。こちらで・・・」。ファーストフードに代表されるマニュアル化されたご挨拶。マニュアルに対し良いイメージを持っていなかったため、その集大成のような機能評価の資料作りには少々うんざり。しかし作業をする内一定のスタイルを作るということは無駄が省け、ミスのチェックも行われやすいことに気がついた。頑なになっていた自分を反省。それにしても二度とは経験したくない機能評価。



● 機能評価本審査を終えて ●

臨床検査科 主任 丸山裕子

開院より4年目を迎える本年に機能評価本審査を受け、改めて医療における質の向上への取り組みを考え直す事ができ、本当に勉強になり感謝しています。今振り返ってみると、とても苦しい思いもしましたが検査科一同苦労し、又まわりの皆様に助けて頂いて、努力が報われた事から心より感じました。ただこれで終わったとホッとするのはなく、これを糧に日々努力・前進を怠らずしっかりとした検査科の土台を築いて参ります。

どんなにどんなに判られてもプライドまでは判らねえ。



● 病院機能評価で得たこと ●

リハビリテーション科 技師長 吉野 孝広

あらゆる事がコンピューター化され、ゴシックで統一された文字では個性を表現することも難しい今の世の中。医療も然り高度な医療器械が最先端の証のように捉えられている。しかし今回機能評価を受け確信したことが一つある、それは医療がいかにコンピューター化され高度なものになろうとも、原点は所謂「手書き的スタイル」だということである。

これだけパソコンが普及し、すべての部署で日常業務に活用しているにもかかわらず、機能評価ではマニュアルが文書化されファイルとして一部屋すべてを埋めるほどの膨大な量になる、とても非効率だと機能評価委員会がある度に感じた。

前々後々の種々なからボウからはみんな生きて、大きく前へ出す為に後ろに下がることもある。



しかし日々の観察、記録の積み重ねが、医療従事者の基本であることを改めて痛感したのも事実である。これらのことを肝に銘じ次回の機能評価に向け、マニュアルを熟成させていきたいと思う。最後に協力して頂いたリハビリテーション科スタッフの皆様ありがとうございました。

● 編集後記 ●

しかし暑い、ほんとに暑い。じっとしていても首筋に汗が浮いてくるほど厚い。心頭滅却しても暑いものは暑い・・・言えば言うほど暑さは増すばかり。先日の明石市の最高気温は36度、暑い筈である。熱中症(ちなみに日射病と熱射病は熱中症に含まれるとのこと)による死亡事故も今年は例年に無く多いとのこと、せっかくの楽しい休日も事故や病気が起こっては台無し。羽目はずし過ぎて、後で後悔しないように皆さんも気を付けましょう。えっ「お前が一番気をつけろ」って・・・ですよ。(吉野)

